

昭和 30 年度 (昭和30年3月1日から 昭和31年2月29日まで) 日本鉄鋼協会事業及び会計報告

事 業 報 告

I. 会 議

本会運営上の会議を次の通り開催した。

1. 第 40 回通常総会 昭和 30 年 4 月 6 日
議事 (1) 評議員の選挙
(2) 昭和 29 年度事業報告
(3) 昭和 29 年度決算報告
(4) 昭和 30 年度予算報告
2. 評議員会 昭和 31 年 2 月 17 日
議事 (1) 監事の選挙
(2) 改選理事評議員候補者の推薦
(3) 正会員及び学生会員会費値上げの件
(4) 定款及び施行細則改正の件
(5) 昭和 30 年度事業報告及び決算報告の審査
(6) 昭和 31 年度予算案の審議
(7) 服部賞, 香村賞, 俵賞, 渡辺賞各受賞者の決定
(8) 評議員会の権限中一部理事会に委任の件
3. 理事会 毎月 1 回, 臨時 2 回, 計 14 回開催, 毎月の事務並びに会計事項の審議, その他一般会務を協議決定した。
4. 編集委員会 毎月 1 回, 臨時 1 回計 13 回開催。
会誌の編集方針, 企画, 掲載論文の選定, 技術資料の蒐集その他会誌編集に関する一切の事務を協議決定した。
5. 支部長会議 昭和30年4月7日
各支部の事業状況の報告があり, 協会発展に関する件, 本部支部間連繫に関する事項等につき協議した。

II. 会 員

本年度において次の通り会員の異動があつた。

異動	会員別 名 誉 会 員	維持会員		正 会 員	学 生 会 員	合 計	会 組 員 織 団 体 数	
		員 数	口 数					
昭和30年2月28日現在	9	129	672	41	4639	215	5,033	69
入 会	+ 3	+ 3	+ 6		+258	+89	+353	
退 会		- 6	-16		-131	-104	-241	
死 去	- 1				- 13		- 14	
住 所 不 明					- 12	- 3	- 15	
復 括	+ 1	+ 2			+ 7		+ 8	

格	+ 8	- 2	- 2	+ 35	- 33		
				- 9	+ 1		
昭和31年2月29日現在	19	125	662	414,774	165	5,124	67

III. 役員及び委員

本年度において次の通り役員及び委員の異動があつた。

1. 監 事
昭和 30 年 2 月 18 日評議員会において監事 1 名の改選を行い, 次の通り選任した。
志村 清次郎
2. 評議員
昭和 30 年 4 月 6 日通常総会において評議員の半数改選を行い, 次の通り選任した。
足立 彰 青木不二男 浅田 長平 池ヶ谷頼緒
伊藤 正夫 石田 稔 上野健二郎 梅津 七蔵
遠藤勝治郎 岡村 武 大河原栄之助 大谷米太郎
嘉村 平八 香春三樹次 桂 弁三 川端 駿吾
川上 義弘 木村 音吉 藁池 浩介 絹川武良司
葛 誠四郎 桑田 賢二 幸田 成康 佐々川 清
~~佐藤 知雄 斎藤 省三 斎藤 隆平 西郷 吉郎~~
里井孝三郎 里村 伸二 島村 哲夫 須永巳代次
角野 尙徳 滝沢 工 永野 重雄 西村 秀雄
錦織 治清 平岡 正哉 広田 寿一 増本 量
町永 三郎 的場 幸雄 宮下啓之助 室井嘉治馬
毛利猷三郎 望月 要 山田良之助 山野上重喜
柳 武 渡辺 義介
3. 編集委員
昭和 30 年 7 月 30 日編集委員浜本甲子生辞任につき
8 月 16 日秋元信一を編集委員に依頼した。

IV. 事 業

- 本年度における事業の概要次の通り
1. 創立 40 周年記念事業
本年は本会創立 40 周年に該当するので, 祝賀大会その他の記念事業を行つた。
(1) 祝賀大会及び祝賀懇親会
昭和 30 年 4 月 6 日東京大学工学部において祝賀大会を開催, 名誉会員の推薦, 功労者の表彰を行つた。

名誉会員の推薦:

浅田 長平, 石原米太郎, 川上 義弘, 河田 重,
松下 長久, 村上武次郎, 渡辺 義介, J. Chipman
T. L. Joseph, Herman Schenck.

功労者の表彰

製鉄功労賞

伊藤 隆吉, 角野 尚徳, 田中 清治, 三島 徳七,
山岡 武.

協会事業に対する功労表彰

芥川 武, 内川 悟, 薬池 浩介, 佐藤 忠雄,
志村清次郎, 俵 信次, 西村吉太郎, 吉崎 鴻造,
永年勤続者表彰:

砂門 喜苦

同日, 上野精養軒において祝賀懇親会開催

(2) 特別講演会

4月5日, 来朝中の独乙鉄鋼協会々長シエンク博士を
招聘し, 記念特別講演会を開催した.

(3) 会誌記念号の発行

「戦後 10 年間における本邦鉄鋼技術の進歩」を特別
編集し, 会誌記念号(7月分)として発行した.

(4) 会誌総目録の編集

昭和 10 年より 29 年まで 20 年間における会誌総目
録を編集, 領布の予定にて目下刊行準備中.

2. 会 誌

「鉄と鋼」第 41 年第 3 号より第 42 年第 2 号まで,
12冊発行. 7月号は創立 40 周年記念号として「戦後10
年間における本邦鉄鋼技術の進歩」を特別編集した.

なお記念事業の一として会誌総目録(最近20年間)を
編集, 刊行準備中.

3. 刊 行 物

Tetsu to Hagane Abstracts No.3 (1953)

T. L. Joseph, Pelletizing of Iron ore Con-
centrates.

最近における平炉製鋼法の進歩(鉄鋼技術共同研究会
製鋼部会報告)

第1回鉄鋼計測講習会テキスト

4. 鉄鋼技術共同研究会の活動

通商産業省重工業局, 日本鉄鋼連盟及び本会の三者を
以て設立した鉄鋼技術共同研究会はその後製鉄部会, 製
鋼部会, 鋼材部会, 特殊鋼部会, 熱経済技術部会, 鉄鋼
品質管理部会を設け, 各部会は又それぞれ分科会又は小
委員会に分れて, 担当の研究事項について活発なる調査
研究を行つた.

5. 鉄鋼技術大系の翻訳

“Making, Shaping and Treating of Steel.” U.S.
Steel Corp. 翻訳のため特別委員会を設け, 刊行準備
中であつたが, 既に翻訳を完了, 目下印刷中.

6. “熱処理と作業標準”の改編

“熱処理と作業標準”を改編のため特別委員会を設け
刊行準備中であつたが, 既に改編完了, 目下印刷中.

7. 工業標準原案の作成

工業技術院長よりの委託により, 鋼材のマクロ組織判
定方法原案作成委員会を設け調査研究中.

8. 講演会, 見学会及び講習会等の開催

(1) 春季講演大会

講演会 昭和 30 年 4 月 6 日, 7 日 東京大学工学部
において開催.

講演数 121 参加人員 600

見学会 昭和 30 年 4 月 8 日, 9 日

見学箇所 28 参加人員 延 345

(2) 秋季講演大会

講演会 昭和 30 年 10 月 1 日, 2 日 札幌市北海道
大学工学部において開催.

講演数 88 特別講演 2 参加人員 300

見学会 昭和 30 年 10 月 3 日, 4 日

見学箇所 14 参加人員 延 130

(3) 第1回鉄鋼計測講習会

昭和 30 年 11 月 7, 8, 9 の 3 日間, 東京都立工業
奨励館において開催.

講師 11 聴講者 43

(4) 品質管理大会

昭和 30 年 11 月 21 日~26 日. 東京大学工学部にお
いて, 日本科学技術連盟他 18 団体と共催.

(5) 塑性加工講演会

昭和 30 年 11 月 10 日, 11 日, 日本交通協会におい
て, 日本機械学会他 4 団体と共催.

(6) 原子力と金属講演会

昭和 30 年 12 月 17 日東京大学工学部において, 日
本金属学会及び日本鋳業会と共催.

9. 表 彰

昭和 30 年 4 月 6 日通常総会において表彰式を行い,
下部の通り表彰した.

服部賞牌 園田一夫

服部賞金 川端駿吾 中島登二 小菅 高 堺千代次

香村賞牌 植山義久

香村賞金 豊島清三 堀田美之 藤山忠造 大浜 侃

俵 賞 石原重利 {井上勝郎, 加藤 信}

渡辺賞牌 松本茂樹

渡辺賞金 吉田道一 小野一男

10. 鉄鋼標準試料の分譲

従来に引続き鉄鋼標準試料の分譲を行つているが、需要増加のため製造間に合わず、頒布に支障を生ずるに至つたので、特に鉄鋼標準試料委員会を設けて対策を研究製造者の増加、分析の促進等の方法によりその後製造も着々進行し、近く 22 種の試料全部を整備、分譲し得る見込。

11. 対外関係

英文 Tetsu to Hagane Abstracts No.3 (1953) を発行し、米、英、仏、独、瑞典、ポーランド、スペイン、ノルウエー、カナダ、インド、インドネシアその他の海外諸国の鉄鋼関係学協会、大学、図書館、研究所、会社、商社等に寄贈し、技術の紹介、交流に資した。なお Abstracts No.4 (1954) は目下刊行準備中。米、英、仏、独、インド、インドネシアその他の諸国の鉄鋼会社その他の諸団体と引続き会誌その他の印刷物の交換をしている。又 Abstracts 所載論文の原文翻訳の依頼等取引の紹介その他の照会斡旋多きを加えたが、これらに対し夫々回答を差し彼我の意思疏通技術の交流に努めた。

印度金属学会の招請に応じ、30年12月カルカッタにおいて開催の同学会第9次大会に下記2名が渡印出席した。

小菅 高 星野 耕一

なお外国会員も漸次増加している。

IV. 地方支部の活動

北海道支部、東海支部、関西支部、中国四国支部、九州支部の各支部においても夫々、講演会、見学会、研究会、講習会、等を開催した。

V. 官庁事項

1. 昭和 30 年 3 月 26 日 工業技術院長より委託に係る砂キズによる鋼品位判定方法の工業標準原案調査報告書を同院長に提出。

2. 昭和 30 年 8 月 1 日 工業技術院長より委託に係るフェライト結晶粒度判定方法の工業標準原案調査報告書を同院長に提出。

3. 昭和 30 年 4 月 27 日 資産総額に関する登記変更申請書を東京法務局日本橋出張所に提出。

4. 昭和 30 年 4 月 27 日 昭和 28 年度事業報告、収支決算書、昭和 29 年予算書、第 39 回通常総会報告を文部大臣に提出。

5. 昭和 30 年 10 月 29 日 工業技術院長より鋼材のマクロ組織試験方法工業標準原案作成の委託を受く。

材質作業能率の飛躍的向上に.....

ニイガタの三ハナイトメタル

- 特 a. 強度、靱性及び剛性が特に高い
- 長 b. 耐磨耗性・振動吸収能及び切欠抵抗性が大きい
- c. 铸造後の変形、経年変形が少い
- d. 機械加工性が良好で、精密仕上可能

- 種類
- 一般機械用(Gタイプ)
 - 耐熱用(Hタイプ)
 - 耐磨耗用(Wタイプ)
 - 耐蝕用(Cタイプ)
 - 粒状黒鉛(GISタイプ)



株式会社新潟鐵工所

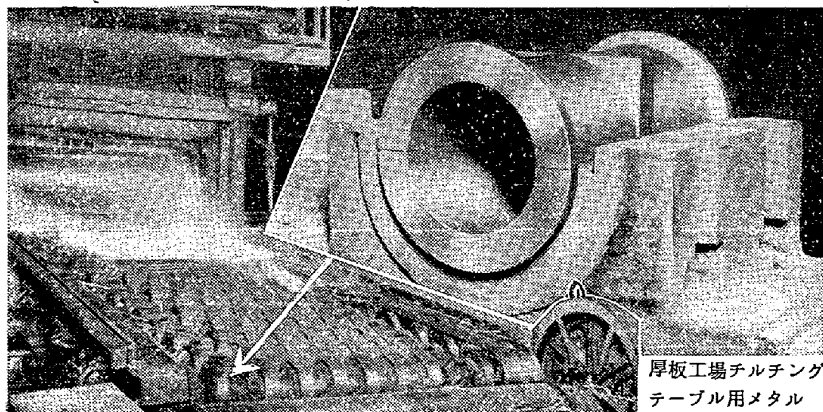
本社 東京都千代田区九段1-6 電話(33)8891・8491
支社 大阪・新潟 営業所 名古屋・札幌・下関

製作工場

新潟製鋼工場 新潟市入船町1丁目3776番地
電話 新潟(2)6121~6128
蒲田工場 東京都大田区本蒲田3丁目4番地
電話 蒲田(73)2131~2135

登録 オイレス 商標

特許 井300 含油鉄材メタル



厚板工場チルチング
テーブル用メタル

特徴 1. 高温度に特に優秀. 2. 寿命四~五倍. 3. 注油回数が減る. 4. 焼付が生じない.

適用 1. 高温で注油の効果なき所.
2. 取替又は故障の多い所.
3. 注油困難又は危険な所及高所等

生産能率の増進は
機械の稼働率の向上から

御一報により説明書送ります。
場合により説明に参上します。

日本オイレスベアリング研究所
代理店

三和機械株式会社

東京都千代田区神田佐久間町3-24
電話 下谷(83)7426番